

人生100年 健やかに生きる

「体育・スポーツとともに」

(21)

NPO法人 ならスポーツクラブ理事長

北 良夫 (91)

およそ100年の歴史を持つ「学校運動部活動」が、今、大きく変わろうとしている。

学校運動部活動は教科とは異なる、集団活動を通して人格形成を図る重要な役割を果たしてきた。そして部活で学んだスポーツは、日本のスポーツ振興に大きく貢献。また、その役割を支えてきたのは、教員の献身的な営みであった。

2019年1月、中教審の教員の働き方改革を受けて、スポーツ庁は「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を示し、文部科学省は、少子化の中にあって、「子供

(その1)

学校運動部活動の 地域移行について

地元、行政、学校一体に

たちが継続してスポーツに親しむ機会の確保」を重視し、教員の働き方改革を進めるに当たって、当面は休日の活動から段階的に移行させる方針を掲げ

ラフ支援センター」は、登録している県内市町村のスポーツクラブから希望者を募って、運動部活動の最も進んでいるといわれる、岐阜県羽島市を訪問してそ

ラフ施設は比較的充実していて、子供たちの活動できるスポーツ環境は整っているといえる。しかし、課題は、地域にスポーツを育てられる組織が存在する

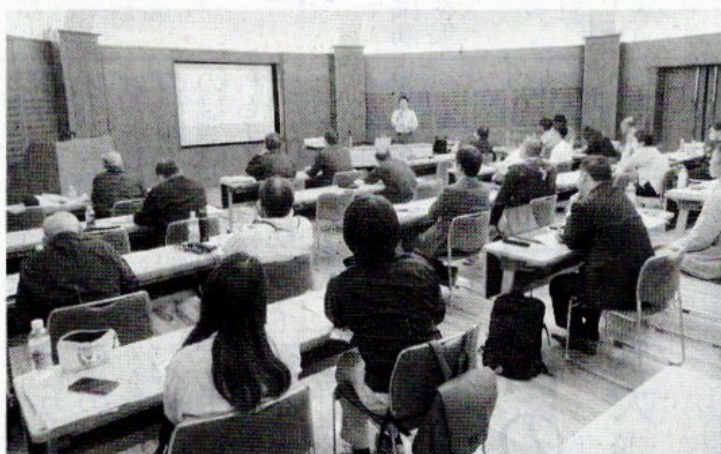
た。23年度は、教員の土、日の部活動への関わりを制限、26年度からはすべての運動部活動を地域に移行させるとした。全国の都道府県教育委員会及び中学校関係者は、その取り組みの最中にある。

10月13日、「奈良県総合型地域スポーツクラブの実態を学んだ。羽島市では早くから、総合型地域スポーツクラブ「羽島なごみ」を中心に運動部の受け皿づくりへ、行政、学校、地域が一体となって取り組んできた実績がある。

日本の学校のスポーツ。羽島市では、地域ス

スポーツクラブと学校の連携がスムーズに取り組まれて、子供たちの休日のスポーツはすべて、地域のスポーツクラブに所属して活動している。平日の部活動指導者(教員)と、地域の指導者はマニユア

ルノートを用いて連携するなど、工夫も凝らされていた。当然のことであるが、地域の指導者には資格の付与者、クラブ運営にはクラブマネージメント専門員を置いて取り組ま



地域一体となったスポーツ環境づくりについて学んだ県総合型地域スポーツクラブ支援センターの研修会＝10月13日、岐阜県羽島市

本県においても県教育委員会は、14年をめぐりに県内全市町村に、1カ所の総合型地域スポーツクラブの設置を目指して取り組みが進められてきた。現在39市町村に52のクラブが設立されている。が、その活動は学校運動部活動の受け皿として機能は十分と言えるか。地域の自治体、行政、学校が一体となってスポーツを育てる組織づくりはできているのか。運動部活動が地域に移され、地域にはそれを育てる責務がある。

地域で活動するスポーツクラブには「街の象徴」として、スポーツを通して街が一体となる仕組みを備えた活動が求められている。

＝この項つづく＝
(第2、4土曜日掲載)